

さいたま市立大宮国際中等教育学校

チーム4K

高校生ボランティア・アワード
2024

「子ども食堂を通じて すべての子ども達を幸せに」

＜活動概要＞

貧困とは、経済的に困窮しているだけでなく、医療や教育などの機会が奪われた状態です。一般的に自力ではその状態から抜け出すのはとても困難で、ますます悪い状態に陥ることも珍しくありません。大人になっても貧困が解消されないまま、その子どもや孫の世代まで貧困状態が連鎖してしまうケースも多発しています。世界に目を向けると、10%の人々は、国際貧困ラインである1日約300円未満で暮らしているという状況なのです。ただ、個人の力ではどうにもならないことが多く、誰かからの支援がなければ抜け出すことは現実的とは言えません。貧困の連鎖はとて複雑でさまざまな要因が関係しています。例えば、十分な貯金がないために教育を受けられなかった子供は、将来大人になっても就職が難しく、負の連鎖が生まれてしまいます。また、食生活においても、十分な食事をとることができず、特に成長期の子ども達は身長が伸びなかったり、集中力が低下して学習に支障をきたすようになってしまいます。

この状況が非常に問題だと考えた私達は、さいたま市の非課税世帯に向けて子ども食堂の運営を行っています。DIC幹部育成コンサルティング様がフードパントリーを運営していることを知り、2024年4月5日より、私達も活動に参加しました。今は、月に1回さいたま市北区で非課税世帯の子ども向けに食料品を無償で提供しています。また、子どもが十分な食事を摂ることができないという課題に加えて、教育面での課題も解決しようと考えました。そこで、フードパントリーの取り組みに加えて、健康的な野菜を使用した子ども食堂やその場で教育支援も同時に行いたいと考えています。子ども食堂は現在農家の方とも連絡が取れており、七月から運営をスタートしようと考えています。経済的に豊かでない家族も現代社会から取り残さないために、子ども達への教育を施すことで将来的な自立が見込めるようにしたいと考えています。場所は、日進一丁目にあるコーポ桔梗1Fや地域の公民館を使って活動しています。世界に限らず豊かな国という認識が強い日本でも、食事に困る多くの子どもがいるにもかかわらず、多くの人が当たり前のように残った食材を廃棄しています。少しずつ認識を変えていかなければいつまでもこの問題は解決しません。食材を集め子どもと協力をしており、そこからの支援をもとに規模の拡大を目指し、多くの子どもを救い一つでも多くの笑顔を継続的に増やしていければよいと考えています。



「心と夢まで満腹に」

＜活動目的＞

この活動を通して私たちは、最終的には非課税世帯の子ども達の自立を目指します。

子ども食堂に非課税世帯の家族のおなかを満たすことができます。食欲は三大欲求の一つであることからわかるように、生活に欠かせないものです。非課税世帯の家族にとって食事をとることは簡単なことではないため、私たちが「フードパントリー」や「子ども食堂」を通じて彼らの食事面の支援を行います。

それにとどまらず、この機会に子ども達に教育の場を提供することで、教育格差を減らし、将来的に彼らの自立を促すことができます。子ども達が自立をすることで地域コミュニティの活気がよくなり、その後の世代も自分の力で生活できるようになるという良いサイクルが生まれます。一人一人が地域づくりに参加することで、持続可能な街を作ることができます。

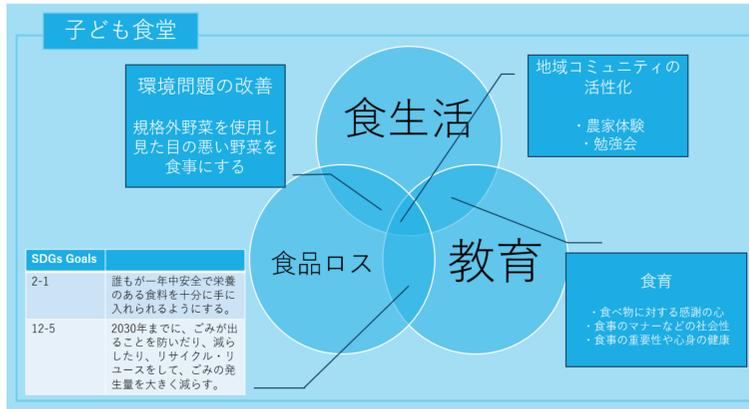
また、私たちの子ども食堂では食品ロスとなった食材を使用します。NPO法人みんなの夢の音楽隊やフードバンク埼玉様からの協力を受け、家庭から出る不要な食品の回収を行い始めてもらっています。また、地域の農家の方々に協力していただき、見た目によって廃棄される食材を無料で提供していただいています。この活動により、本来捨てられるはずだった食材を食料を求める人々に回すことができ、食品ロスの改善を行っています。

このことから、非課税世帯の生活を支援し、教育によって地域コミュニティの活性化をし、食品ロスも減らしています。

「同じ想いをもつ仲間と共に」

食生活と食品ロス

農家さんからいただいた規格外野菜を使用し、食堂で食事として提供することで様々な家庭の食生活に作りかえます。非課税世帯の食事も助けながら、食品ロスを減らしていくことで環境も守ってまいります。



食品ロスと教育

SDGs「2」の目標においては、誰もが一年中安全で栄養のある食料を十分に手に入れるようにし、食事に困る子供が少しでも減らせるようにします。SDGs「12」の目標では、ごみの発生量を抑えるために食品ロスによって出た食材を多く使用した活動を行ったり、子ども食堂内でも調理法などを工夫してゴミが出ないような活動を行ったりしたいと思います。

食生活と教育

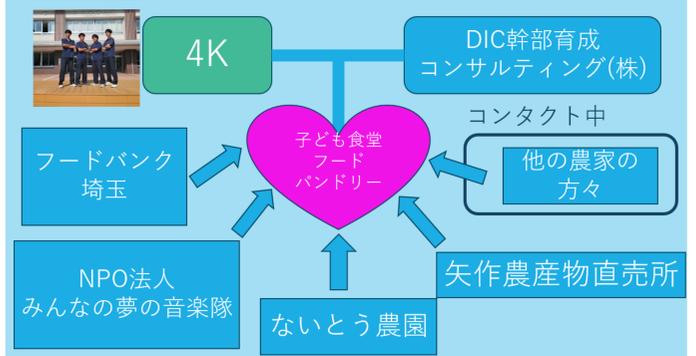
食事に対する基本的な知識を子どもたちに伝えたいと考えています。みなで一緒にテーブルを囲むことで、食事の楽しさとマナーを同時に教えます。また、命をいただくことの尊さ、食べ物を作ってくれた農家さんに対する感謝の心を伝えたいです。

最終的には地域コミュニティの活性化を目指します。農家の方に協力してもらい、子ども食堂に来る子供たちと農業体験を行い、その地域の人と人とのつながりを強めます。また、食堂内で私たちが教師となる勉強会を開きます。これらの活動により、子ども達の自立や人との新たなつながりなどを促し、最終的には、その地域が発展していくようにしていきます。

4Kの活動

子ども食堂の運営、規模の拡大のためには私達の力だけでなく、協力してくれる団体が必要となります。現在、DIC幹部育成コンサルティング(株)様に食材の保管場所の確保や非課税世帯の家族の招集などの面で協力していただいております。また、おいしく新鮮な食材の確保が困難なため、地域の農家の方(現在は2カ所)に食品ロスとなる食材の無償提供をお願いしております。また、フードバンク埼玉も私たちのプロジェクトに賛同をいただき、今後常温保存可能な食材(缶詰やお米など)を私たちに分けていただくつもりです。

また、NPO法人みんなの夢の音楽隊様ともコンタクトを取っており、私達の活動に協力をしていただく予定です。今後はクラウドファンディングの設立やアプリ開発の委託、広報活動や地域コミュニティの架け橋の役割を担ってまいります。



これらに加え、今後はより多くの埼玉県の農家さんと協力をしてまいります。現在のままでは食料が少なく、規模の拡大には至れないと感じたからです。そのため、農家さんとメッセージでコンタクトを取り続け、協力関係を築けるようにしたいです。

このことから、私達は子ども食堂をより発展させ、子供たちが自立した地域コミュニティの形成を目指します。

「未来を育む味と笑顔のよりどころに」

チーム4Kの今後の活動の展望について

・より広範囲への支援
→非課税世帯数が特に多いさいたま市、川口市全域に活動を展開していきたいです。(令和五年度埼玉県統計データより)

・さらなる企業や農家との提携
→規模の拡大に伴い、食料量の確保が必要なので、新たに農家や企業様と提携を結びたいと考えています。
→現在提携している農家や企業様とも持続的な関係を保ちます。

・地域のコミュニティづくり・活性化
→子ども食堂で生まれたつながりを、終わらせない!!
→「農家体験」「収穫体験」など、農家様と協力して運営します。
→幅広い世代の子供たちがいることから、長期休みなどに宿題の悩みを解決する「勉強会」の開催する予定です。

・アプリやサイトの制作・広報
→町の呼び込みや、ポスター広告などでは限界があるため、近年普及率が急増しているSNSや、Youtubeチャンネルの開設、サイト運営での広報活動に力を入れていきたいと考えています。

6月30日	第一回子ども食堂
7月14日	第二回子ども食堂
7月30日	子ども勉強交流会～夏休み宿題編～
8月11日	第三回子ども食堂～夏休みカレースペシャル～
9月1日	第四回子ども食堂
9月22日	第五回子ども食堂
10月5日	農家体験～いちごを植えてみよう～
10月26日	スポーツ大会@大宮国際中等教育学校
11月10日	第六回子ども食堂
12月15日	収穫体験～植えたイチゴを収穫だ!～
12月25日	第七回子ども食堂～クリスマススペシャル～
12月31日	第八回子ども食堂～忘年会～

収穫したいちごは、12月25日の子ども食堂にて、クリスマスケーキの材料として使う予定です。これを通じて子ども達に栽培～食事までの流れを体験してもらい、楽しさや喜び、達成感につながると考えました。

集合写真



活動団体プロフィール

チーム4K 野本翔生 木下翔宇 村田一真 円尾幸太郎

大宮国際中等教育学校に所属する男子生徒四人で、フードパントリーという活動を行っています。はじめは、「食品ロスをなくしたい」「地域活性化を目指したい」「教育と経済の関わりを知りたい」など、違う興味を持っていた四人でした。ただ、話し合いをしていく中で、子供食堂の運営を行うことがそれぞれの興味関心を深め、解決することにつながると感じ、「4K」が結成されました。

同じ思いを持っている団体の方々や農家の方々と一緒に、すべての子供たちに十分な食事と十分な教育が行き届くのを目標として、子ども食堂の運営を行います。この活動を通して、より多くの子ども達を幸せにできるように頑張ります!!